

令和5年度 山梨県立巨摩高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針		高い志と挑戦する気概を持ち、何事にも主体的に取り組む生徒を育成する。			山梨県立巨摩高等学校校長 渡邊 圭一郎		
本年度の重点目標	1 自ら学び、自ら考え、実践する「巨摩スタイル」を推進し、自主・自立の精神を養い、未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する。	達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)	評価	4	良くできている。
	2 個に応じた進路指導の充実を目指すとともに、学力の定着に努め実力の向上を図る。		B	概ね達成できた。(6割以上)		3	できている。
	3 部活動をはじめとする特別活動やボランティア活動のさらなる活性化を図り、コミュニケーション能力を培い、調和のとれた人格の育成に努める。		C	不十分である。(4割以上)		2	あまりできていない。
	4 生徒の一生懸命な取り組みを評価・支援し、誇りと感動をもって学校生活を営めるような指導に努める。		D	達成できなかった。(4割以下)		1	できていない。

自 己 評 価							学校評議員による評価	
	本年度の重点目標			年度末評価(令和5年11月24 日現在)			実施日 (令和6年2月21日)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	生徒の確かな学力の育成と向上のため、「巨摩スタイル」の確立を目指す取り組みを強化する。	主体的・対話的で深い学びの実現と業務改善を目指したICTの活用を推進する。 「巨摩スタイル」の内容を精査・具体化し、生徒のやる気を引き出す「授業と評価の一体化」に取り組む。 生徒による授業評価を適切にフィードバックし、授業力の向上を図るとともに、実態に合った授業改善を行う。 面談等を通して、家庭学習時間や学習方法について個に応じた指導助言を行う。	管理職授業参観票 相互授業参観票 学校評価アンケート 授業評価アンケート 学校評価アンケート 授業評価アンケート 学習時間調査 スタディ・サポート	○授業におけるICTは教授内容の提示や課題の提出、連絡事項の伝達等に利用している。 ○公正・公平な学習評価を行うとともに、教授方法の工夫・改善に取り組むなど、わかりやすい授業が展開されている。	B	○学びの基礎診断によると学習時間に対して学力の定着が低い傾向がある。課題量が多く、消化不良になっている可能性がある。学校全体で課題の適切な質と量を検討し、各自の必要とする学習課題に取り組む体制を確立する。	3	○学力定着には、生徒個々の能力や適性に応じた対応が必要と思われるが、教職員の負担も増えるため、効率的で実効性の高い取り組み方法を確立して欲しい。 ○教職員の業務改善のため今後もICTの活用を高度化し生産性を向上して欲しい。 ○生徒全員が保有しているタブレットを最大限生かす指導の充実をお願いしたい。
2	理数創造コースを中心とした理数科学活動を学校全体で推進し、課題を自ら発見できる生徒を育成する。	キャリアビジョン支援事業として、地域交流事業を企画運営し、主体性とコミュニケーション能力の向上を図る。 地域に根差した交流事業とするために、全職員で企画運営に当たり、行事の成功につなげる。 総合的な探究の時間などを利用し、自ら課題を見つけさせ、その成果を学校内外に積極的に発信させる。	行事参加者アンケート 学校評価アンケート 学校評価アンケート 行事参加者アンケート 学校評価アンケート	○総合的な探究の時間で南アルプス市と連携しながら、SDGsに継続的に取り組むなど、内容が充実している。 ○エネルギー研修や科学の甲子園、高大連携など多様な行事が、新たな知見の獲得や学習意欲の喚起につなげる成果をあげている。	B	○総合的な探究の時間を牽引する体制の脆弱性及び学年間の連携不足などが喫緊の課題である。また、一部の先生方の負担も大きいので、業務の平準化や内容等の精選が必要。	3	○理数創造コースを中心とした科学活動を学校全体で推進し、本校の全体的評価を向上させて欲しい。管理職のリーダーシップのもと、実効性のある取り組み体制を構築して欲しい。
3	進路目標実現のため、教科・学年・分掌が協調しながら、一丸となって指導を推進する。	生徒一人一人が高い目標をもち、その実現に向けて切磋琢磨できる学習環境を整える。 生徒の自己肯定感を高め、学校生活や進路の目標設定を適切に行えるよう指導する。 教師が率先垂範することで、生徒との人間関係を構築し、学校生活全般において適切な指導助言を行う。	授業評価アンケート 進路実績 学校評価アンケート 進路希望調査 学校評価アンケート	○3年生の小論文・面接の指導や進路行事等において、各分掌や学年と情報交換するなど、全職員の協力体制ができている。 ○各クラスでは担任が個々の生徒に丁寧に対応・指導助言している。	B	○土曜学習会・課外に関して、より生徒のためになるように、内容や実施時期・回数等の改善を図る。 ○模試対策や日常的な学習など、学習することで自分の人生が開けていくという意識を持てていない。学年が協力して働きかけていく。	3	○学習することで自分の人生が開けていくという意識を、生徒が持てるように、教科・学年・分掌が協調しながら、一丸となって指導を推進して欲しい。
4	部活動などの特別活動において、生徒が自己肯定感、充実感を持てるような指導を実践する。	部活動や学校行事など充実感や達成感を得られる多様な活動を推進する。 ボランティア活動などに意欲的に参加させ、視野を広げるとともに調和のとれた人格の育成を図る。 メンタルヘルスケアや特別支援教育について、教職員の共通理解のもと相談体制の充実を図る。 部活動活性化と教職員の負担軽減のため、部活動外部指導者の活用等進めていく。	学校行事アンケート 学校評価アンケート 学校行事アンケート 学校評価アンケート 学校評価アンケート 学校評価アンケート	○部活動や学校行事などを通して、充実感や達成感を得られるよう活動した。 ○メンタルヘルスケアについて、係り職員と非常勤相談員が連携協力し、定期的な面談やプリントを配布するとともに、市の福祉課、教育センター等の外部専門機関につなぐ等、きめ細かな援助に努めた。	A	○清掃作業や挨拶において、主体的に行動できない生徒もいる。根気強い指導が必要。 ○メンタル不調な生徒が増えており、その対応に追われている。学年等とより綿密に連携していく。	4	○部活動が活発であることは本校の長所・アピールポイントであり、生徒の充実感・達成感を促すサポートを期待したい。 ○生徒のメンタルヘルス対策は外部専門機関等、綿密な対応を望む。 ○教職員のメンタルヘルスについても、定期的なチェック、就業環境の改善等を望む。
5	本校の特色や活動の成果を、あらゆる機会を通じて地域に発信・紹介し、信頼される学校づくりに努める。	学校説明会やオープンスクール、巨摩高だよりやHPを通して日頃の活動を広報する。 部活動を中心とした地域貢献事業を推進する。 地域や家庭と連携・協力し、防災教育・安全教育を実践する。	行事参加者アンケート 学校評価アンケート 行事参加者アンケート 学校評価アンケート 学校評価アンケート	○中学生・保護者対象の学校説明会では進行や発表を生徒が主導するスタイルで実施して、本校の良さをアピールをした。 ○巨摩フェスタやわくわくアカデミー、巨摩高だよりやブログ更新等を通して日頃の活動を広報した。	A	○理数創造コースの魅力、もしくは中学生が抱えている不安要素の払拭を機会あるごとに発信していく。 ○挨拶できない生徒が増えている。全職員が問題意識をもって指導していく。	4	○地域の中学生の、本校に対する不安要素を正しく認識し、在校生と連携して改善に取り組んでほしい。 ○理数創造コースの内容充実を図り、中学生・保護者・中学教師にアピールして欲しい。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。
学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。